

(別添 2 - 2)

平成 28 年 11 月 22 日現在

シラバス

指定番号 210

商号又は名称: 社会福祉法人かわち野福社会介護職員初任者研修

科目番号・科目名	(1)職務の理解			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
指導目標	・研修課程全体(130時間)の構成と各研修科目(10科目)相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率的に学習できるような素地の形成を促す。 ・視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。			
① 多様なサービスと理解	2	2	0	介護保険制度の代表的なサービス、介護保険外サービスの種類と内容について理解する。(講義)
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4	4	0	介護に対するイメージをグループ単位で発表する。介護職員としての職務内容と、事業別のサービス実施のプロセス、介護職員の職務内容の特性について理解する。(講義・演習)
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	視聴覚教材 (DVD) 長寿社会開発センター 「介護職員初任者研修テキスト (第2版・第2冊)」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 210

商号又は名称：社会福祉法人かわち野福社会介護職員初任者研修

科目番号・科目名	(2)介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ・ 具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ・ 利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 ・ 虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	5	1	4	人それぞれの価値観について多様性を理解し、グループ単位で発表を行う。ICF、QOLの考え方、個人の権利を守る制度について学ぶ。(講義・演習)
② 自立に向けた介護	2	1	1	自立・自律支援、残存能力の活用、動機の欲求、意欲を高める支援とはどのようなものが討議する。 (講義)
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	人権を体感で理解し、その大切さを学ぶ。 「自分自身を大切にすることが自分の人権を尊重することになる」ことを理解して、介護の現場で人権尊重を実践する大切さを理解する。
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	長寿社会開発センター 「介護職員初任者研修テキスト(第2版・第2冊)」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 210

商号又は名称：社会福祉法人かわち野福社会介護職員初任者研修

科目番号・科目名	(3)介護の基本			
指導目標	<p>・ 可能な限り具体的例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。</p> <p>・ 介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人に対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるように促す。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性 と他職種との連携	1.5	0.5	1	介護環境の特性を理解し、多職種連携のあり方、それぞれの特性を理解する。(講義)
② 介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	介護の仕事は知識・技術だけでなく高い倫理性が必要であることを理解し、グループワーク単位で問題となる行為について検討する。(講義・演習)
③ 介護における安全の確保 とリスクマネジメント	2.5	1.5	1	介護サービスを提供していく上で必要な安全確保の視点を学び、介護事故を予防するために必要な要因、原因を考えグループ単位で発表する。(講義・演習)
④ 介護職の介護職の安全	1	0.5	0.5	介護職員の健康管理とストレスマネジメントについて学ぶ。(講義)
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	長寿社会開発センター 「介護職員初任者研修テキスト(第2版・第2冊)」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 210

商号又は名称：社会福祉法人かわち野福祉社会介護職員初任者研修

科目番号・科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	<p>・ 介護保険制度・障害者総合支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。</p> <p>・ 利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者総合支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3	0.5	2.5	介護保険の基本的な仕組み、介護給付の種類、介護保険利用の流れを理解する。介護保険利用のフローチャートを作成する。(講義・演習)
② 医療との連携とリハビリテーション	3	0.5	2.5	障害者福祉制度の理念を理解する。成年後見制度について学ぶ。(講義)
③ 障がい者総合支援制度およびその他制度	3	0.5	2.5	医行為と非医行為、医療職との連携について理解する。事例を通しリハビリテーションの流れについて学ぶ。(講義)
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	長寿社会開発センター 「介護職員初任者研修テキスト(第2版・第2冊)」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 210

商号又は名称：社会福祉法人かわち野福祉社会介護職員初任者研修

科目番号・科目名	(5)介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	<p>・ 利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。</p> <p>・ チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	2	1	円滑なコミュニケーションのための共感と利用者理解、自己覚知および言葉遣いについて学ぶ。ロールレイングで様々な介護場面での対応法を学ぶ。(講義・演習)
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	1	2	チームワークの効果と意義について理解する。観察、記録、情報伝達の目的、要領をロールレイングを交えて学ぶ。(講義・演習)
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	長寿社会開発センター 「介護職員初任者研修テキスト(第2版・第2冊)」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 210

商号又は名称：社会福祉法人かわち野福社会介護職員初任者研修

科目番号・科目名	(6)老化の理解			
指導目標	高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	2.5	1.5	1	加齢に伴う五感の変化が日常生活に与える影響について理解し、ケアの上で気をつけるべき点を学習する。高齢者の視力、聴力状態の疑似体験。(講義・体験学習)
② 高齢者と健康	3.5	1.5	2	様々な症状がどのような病気から起こるのか、どのような場合に医師、看護師に相談すべきかを学習する。(講義)
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	長寿社会開発センター 「介護職員初任者研修テキスト(第2版・第2冊)」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 210

商号又は名称：社会福祉法人かわち野福祉社会介護職員初任者研修

科目番号・科目名	(7)認知症の理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ・ 複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1	0.5	0.5	認知症の理念を理解し、「できること」に着目したケアの形として「ソーシャルワーク」の考え方を学ぶ。(講義)
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1	1	0	認知症の定義、診断基準などの基礎知識を取得する。中核症状と行動・心理症状の違いについて理解する。(講義)
③ 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	3	1	2	認知症の行動・心理症状に対する対応法を学び、誘発する介護職の不適切なケアや、適切なケアについて理解する。認知症の利用者の気持ちを考え、グループ単位で発表する。(講義・演習)
④ 家族への支援	1	0.5	0.5	家族の世話と専門家のケアとの違いを理解する。家族の気持ちや受けやすい方法について、学ぶ。(講義)
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	長寿社会開発センター 「介護職員初任者研修テキスト(第2版・第2冊)」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 210

商号又は名称：社会福祉法人かわち野福社会介護職員初任者研修

科目番号・科目名	(8)障がいの理解			
指導目標	・ 介護において障害の概念と ICF を理解しておくことの必要性の理解を促す。 ・ 高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎知識	1	0.5	0.5	障害の概念と ICF について理解する。障害の受容のプロセスを学び、介護職の役割を考える。(講義)
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	1.5	0.5	1	障害の種類を学び、日常生活や心理・行動にどのような影響を与えるのかを理解する。(講義)
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5	0	家族の介護負担とその要因、必要性を理解した家族支援と QOL の向上との関係を学習する。家族が受けやすいストレスについてグループ単位で考え発表する。(講義・演習)
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	視聴覚教材 (DVD) 長寿社会開発センター 「介護職員初任者研修テキスト (第 2 版・第 2 冊)」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 210

商号又は名称：社会福祉法人かわち野福社会介護職員初任者研修

科目番号・科目名	(9)こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ・ 高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	4.5	1.5	3	適切な介護を行うための基本的な考えを理解し、根拠に基づく介護の大切さを学ぶ。(講義)
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	1	3	高齢期に生じやすい心理・社会的環境の変化について学び、パーソナリティの変化や適応の仕方について理解する。(講義)
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4.5	1.5	3	介護の専門職として必要な人体の骨格、関節、筋の働きを理解し、ボデイメカニクスの介護への活用を学ぶ。(講義)
④ 生活と家事	3.5	2	1.5	家事支援の必要性を理解し、利用者の自立とQOLの向上に向けた援助方法を学ぶ。(講義)
⑤ 快適な居住環境整備と介護	3	1.5	1.5	障害者や高齢者にとって快適な住居整備や福祉用具の活用について学ぶ。(講義)
⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5	6.5	0	身体の清潔、口腔ケアの意義を理解し、整容行動の基礎知識と仕組みを学ぶ。(実技演習) <ul style="list-style-type: none"> ・ 清拭の準備物の確認、全身清拭の順序と方向 ・ 足浴、手浴、洗髪の介護 ・ 口腔体操、歯磨き
⑦ 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	13	13	0	体位・姿勢の介護、褥瘡の予防、衣服の着脱、移乗の介護、車椅子や杖歩行の介護を理解し、実践する。(実技演習) <ul style="list-style-type: none"> ・ 体位・姿勢交換の介助 ・ 症状に応じた衣服着脱の介助 ・ 安全な移乗のための補助具の使い方、特徴 ・ 車椅子、杖の種類と移動介助の方法
⑧ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5	6.5	0	食べ物の咀嚼・嚥下の仕組み、食事の自助具の特徴と誤嚥させない介護について理解し、実践する。(実技演習) <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体状態に応じた食事介助の方法 ・ 食事の自助具の使い方と特徴
⑨ 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	6.5	6.5	0	入浴の前後の体調確認、入浴のポイントや手順、障害別の介護方法について理解し、実践する。(実技演習)

みと自立に向けた介護				<ul style="list-style-type: none"> ・入浴の準備物の確認、健康チェック ・入浴介護の手順 ・障害別入浴方法のポイント
⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5	6.5	0	<p>排泄介護の原則、排泄用具、おむつの特徴と介護のポイント、排泄行動が自立できるための観察と介護方法について理解し、実践する。(実技演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄用具の特徴と使用方法 ・おむつの種類と使用方法、交換手順
⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5	4.5	0	<p>睡眠のリズムや生理的変化の仕組みを学び、高齢者の睡眠の特徴を理解して、安眠の支援を行う。(実技演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安楽な姿勢 ・ベッドメイキング
⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみ終末期介護	1.5	1.5	0	<p>様々な終末期の形を学び、出てきやすい症状を理解する。家族へのケアにおける留意点を理解する。(講義)</p>
⑬ 介護過程の基礎的理解	4.5	4.5	0	<p>介護過程の目的と意義、展開について学ぶ。人生歴を知り、孤独にさせない工夫についてグループ単位で検討し、発表する。(講義・演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例からみる介護過程
⑭ 総合生活支援技術研修	6	6	0	<p>①要介護者・家族介護者への援助、②要支援者への支援の2事例について、事例の対象者の心身状態に合わせたような介護、支援を行うべきかグループ単位で演習を行い、検討する。(演習・演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント、介護計画の作成、介護手順書の作成
(合計時間数)	75	63	12	

使用する機器・備品等	<p>介護ベッド、車椅子、ポータブルトイレ、歩行器、杖、一般浴槽、シャワーチェア、自助具、骨モデル、視聴覚教材 (DVD)</p> <p>長寿社会開発センター 「介護職員初任者研修テキスト (第2版・第2冊)」</p>
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 210

商号又は名称：社会福祉法人かわち野福社会介護職員初任者研修

科目番号・科目名	(10)振り返り			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅、施設の何れの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、対応の態度等の礼節を含む。）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。 ・ 研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたうえで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。 ・ 修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。 ・ 最新知識の付与と、次のステップ（職場環境への早期適応等）へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。 ・ 介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ましい。（視聴覚教材、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等） 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	3	3	0	研修全体について振り返り、学んだことの要点を整理する。介護についてテーマを決め、グループ単位を公表し、学習到達度を確認する。（講義・演習）
② 就業への備えと研修終了後における実例	1	1	0	介護のキャリアパスを理解し、今後の自己研鑽について、どのような方法があるか学ぶ。（講義）
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。